

施設報告

若槻壮市（高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光科学研究施設）

2011年度は昨年3月11日の東日本大震災からの復旧と復興の1年でした。ユーザーの方々、他施設の多大なるご協力とサポートをいただき昨年10月に大学共同利用を再開することができました。この場を借りてお礼申し上げます。電気代の高騰により来年度以降の放射光運転時間については予断を許さない状況ではありますが、これまで以上の共同利用アクティビティーがあげられるよう第3次補正予算や大型外部資金等による複数の挿入光源ビームラインの整備を中心としたビームライン統廃合第2期計画を進めてまいります。

今年のPFシンポは第29回となり2日目にはPF30周年記念講演として初代施設長高良和武先生、初代放射光測定器研究系主幹佐々木泰三先生、元PF-SAC議長Keith Hodgson教授にお話を伺うことになっております。30周年を迎え、PFでは次期光源としてのERL計画をさらに強力に進めてまいります。PFシンポの直前3月14日には第2回ERLシンポジウムを開催し、根岸栄一先生(2010年ノーベル化学賞)に特別基調講演を賜ることとなっております。また、浅島誠先生(産総研)にも生命科学分野からのERLへの期待についてご講演をいただきます。3GeV ERL早期実現を目指して、cERLの建設最終段階の加速、3GeV ERLのCDR作成とその評価等を行い、機構ロードマップや学術会議大型計画マスタープランでのERL計画の明確な位置づけを図ります。さらに、複数の大学に量子科学研究センターや加速器科学センター等横断的な組織を設立していただき大学アウトステーションネットワークとしてのERLへ参加していただける新システムを検討しています。PF懇談会の組織改革もいよいよ大詰めを迎え、4月以降PF Users Association(PF-UA)として生まれ変わります。PFユーザーが全員PF-UAの会員となり活動のコアをユーザーが支える組織となることで、真の意味でのPFユーザーコミュニティの代表として生まれ変わることはPF次期計画の早期実現にとっても重要なステップとなることと期待しております。

2012年4月には物質構造科学研究所、放射光研究施設とも新執行部体制となります。所長に東北大学山田和芳教授を迎え、村上洋一教授がPF施設長に着任され、伊藤健二主幹、足立伸一主幹、小林幸則主幹(加速器第7系)とともに活動を開始されます。また、野村昌治主幹が高エネ機構理事に着任されます。現執行部の2期6年間の間、ご協力、ご指導をいただきましてまことにありがとうございました。